

子どもと学校 ～その2～

- | | | |
|----------------|---------------------|--------------------|
| 1. 心理的空間としての学校 | ○ 中原 美恵 (千葉県教育センター) | 庄 健二 (千葉大研究生) |
| | 島山 滋 (千葉大大学院) | 青藤 智子 (お茶の水女子大大学院) |
| 2. 母親からみた学校生活 | ○ 今野 恵子 (大妻女子大研究生) | 深谷 昌希 (放送大学) |
| | 深谷 和子 (東京学芸大) | 田中 雅丈 (三井情報開発) |
| | 田中 純江 (落合第5小) | 河野 真佐子 (慶應義塾大学大学院) |
| | 角幡 美子 | |

1. 心理的空間としての学校

学校は知的能力の開発のみならず、人間関係の体験を意図的無意図的に子どもたちに用意している。学校内の人間関係の体験は子どもたちの自己像の形成に少なからず影響を及ぼしてさえいると思われる。

子どもたちは学校の中でひとりひとり異なった人間関係の集まり(心理的ネットワーク)を形成していくのであるが、こうした心理的ネットワークの広がり結びつきの深さを規定する要因が、学校内外の人間関係の体験である。

したがって、本調査は具体的に、子どもが学校の中でどのようにして良好な人間関係のネットワークを形成する能力を身につけていくかを明らかにしていく。調査項目は以下のとおりである。

- ① 学校内外の人間関係の体験
- ② 学校内の人間関係のネットワークの広さと深さ
- ③ 学校内外の生活体験
- ④ 自己像(自己実現)

2. 母親からみた学校生活

現代社会においては、核家族化の進展と兄弟数の減少のなかで、母親と子どもの接触密度は上昇傾向にある。一方で、女性の高学歴化、余暇時間の増大に伴って、母親が子どもの教育に対して抱く関心はかなり高まっている。

家庭をとりまく社会環境に目をやれば、校内暴力、登校拒否、受験戦争な

ど学校教育の中に生じた数々の矛盾とそれらに対する社会的関心の高まりは無視しえないものとなっている。

こうした中で、現実には子どもが多く時間をついやす学校生活を、子どもたちの母親はどのように見ているのだろうか。

以上のような問題意識のもとに、今回は、小学校に視点をあて、小学生をもつ母親を対象にアンケート調査を行い、母親の学校生活とのかかわりと学校教育に対する評価を分析する。調査項目は以下のとおりである。

- ① 子どもの学校生活に対する認識
- ② 学校との母親自身のかかわりの実態
- ③ 学校への満足度
- ④ 教師に対する評価
- ⑤ 学校と家庭との役割分担に関する考え方
- ⑥ 学校教育への期待

なお、各サブグループのサンプルは以下のとおりである。

1. 心理的空間としての学校 千葉・奈良の小学生約1200名
2. 母親からみた学校生活 東京近郊の小学生をもつ母親約800名

調査結果は当日配布する。